

平成30年度第3回熊本市小中一貫教育検討委員会議事録（案）

日時：平成30年11月19日（月）10時～12時

場所：マスマニチュアル生命ビル7階会議室

○当日の会次第

- 1 開会
- 2 教育委員会あいさつ
- 3 議事
 - (1) 小中一貫教育モデル校の実践報告
 - ・ 楠中校区
 - ・ 江南中校区
 - (2) 指導課より説明
 - ・ 平成30年度 of 取組状況
 - ・ 平成31年のスケジュール
 - ・ 先進校（品川学園）視察報告
 - (3) その他
- 4 事務連絡
- 5 閉会

〔検討委員会議事録〕

古賀委員長	前は、芳野小・芳野中学校の視察研修及び研究内容の紹介だったが、本日は江南中校区（向山小・江南中）、楠中校区（楠小・楡木小・楠中）の実践報告があり、その後には指導課から説明という予定である。
	(1) 小中一貫教育モデル校の実践報告
本田委員	① 楠中学校区の実践報告（説明省略）
荒木委員	特に工夫したところはどこか。
本田委員	これまで小中連携に関する会議を同日に実施していたが、研究主任会、教務主任会等の時期をずらして実施したところ、複数の部会に参加できるようになり、会議が充実したものになった。
古賀委員長	幼稚園の位置づけで、工夫したことはあるか。
本田委員	研究モデル校の指定に幼稚園が入っていなかったが、幼稚園との連携の必要性が高いことから、楠幼稚園に加わってもらい研究推進を行った。ただ、幼稚園の子どもたちは、校区の子どもたちが来ているわけではないので難しさもあった。
中西委員	楠中学校の校区は、2つの小学校、1つの中学校であるが、乗り入れ授業はどのくらいの頻度（時数）で行っているか。また、取組の工夫があれば教えてほしい。
本田委員	中学校に加配教員の配置があり、中学校の全職員に兼務発令をいただいているところに特徴がある。実際は、1人の職員の授業時数を極端に減らし、その範囲内で1～2週間に1回乗り入れ授業をしている。また、授業にはT2として

	参加し、教科会を定期的の実施している点も工夫しているところである。
塩津委員	研究テーマはどのようにして練られたのか。実際、中学校の研究テーマはどうなっているのか。
本田委員	中学校は、「夢実現」という研究テーマで、キャリア教育に近い内容になっている。小学校の研究テーマもキャリア教育の内容に近い。そこで、小学校段階では授業レベルや生活レベルで積み上げていって、中学校でのキャリア教育につながるようにしている。
橋爪委員	今後の課題と成果のところで、「カリキュラム作成の内容を絞る必要がある」とあるが、これは各学校にまかせてよいのか。それとも、ある程度熊本市として教科を示した方がいいのか。
本田委員	「情報活用能力」や「言語能力」などに絞って、小学校から中学校までのカリキュラムを作成するのが現実的かと思う。最初は、カリキュラムの必要感が浸透しなかったり、やらされ感が強かったりしたので、例示していただく方がありがたい。
橋爪委員	「振り返り」の8点の例示は分かりやすい。この8点を例示することは大事だが、自由に選ばせた方がいいのか。それとも、こちらから指示した方がいいのか。
本田委員	振り返りは、試行錯誤している状況である。「どれでもいいよ」という振り返りを何回もさせて、自分で選んで書くことができるようになっていった。最初は、「何がわかったのか」について書くことからスタートした。
荒木委員	② 江南中学校区の実践報告（説明省略）
小田委員	富合中学校では、研究部長がコーディネーターを兼ねていたが、コーディネーターはどのような先生がされているか。
荒木委員	向山小学校では、校務分掌に小中一貫教育担当を位置付けている。江南中学校では、研究部長がコーディネーターを兼ねていたが、2学期から特別支援学級の先生が担当するように変更した。
塩津委員	素晴らしいグランドデザインができています。地域の方々もそれを見ることができるが、デザインを作ってみて、地域の方が変わってきたことはあるか。
荒木委員	地域の協力は、これまでも多くの面でご協力いただいていたので特に変わってはいない。変わったのは学校の先生方である。先生方は、「こういうふうにしたいから、～したい。」というように視点が明確になってきた。
谷口委員	保護者に、このように関わってほしいということはあるか。
本田委員	今年は連携カリキュラムを全家庭に配付し、それをもとに保護者にも声掛けをお願いしたところである。
荒木委員	保護者の方の幼小中一貫教育関係の集まりがあり、本校の保護者の意識は高

	い。PTAに直接お願いすることはあまりない。
橋爪委員	校長と教頭のリーダーシップがあっても、先生方の理解が進んでいないと、やらされ感が強くなるため、小中一貫教育のコーディネーターは必要だと思うが、大規模と小規模でまとめ役のエネルギーは違うのか。また、加配を含めたマンパワーがないと進められないのか。
中西委員	小規模校で他校よりも授業時数は少ない状況だが、全学年に授業に行くことや校務分掌が多いことを考えると、できたらマンパワーの支援はほしい。
小田委員	コーディネーターは、小・中学校のそれぞれに配置してほしい。小中一貫教育に関して自由に動ける人は必要である。学級担任をしながら兼務することは難しい。
事務局	(2) 指導課から説明(詳細は省略) ① 平成30年度 of 取組状況 ② 平成31年のスケジュール ③ 先進校視察報告
荒木委員	スクールサポートスタッフとは、どのようなことをするのか。
事務局	区から学校に派遣された人で、単純な作業を担当して学校をサポートしている。例えば、文書を印刷したり、配布物を各教室に配ったりしている。
磯田委員	校舎の作り方から面白いというか、とても先進的だと思った。ハード面から小中一貫教育に取り組みやすい環境だと思うが、目的は達成されているのか。
事務局	どの学年も生徒は落ち着いた生活をしていた。また、学力も向上している。職員室を1つにしたことで、問題の大半は解決したとのことだった。
事務局	小学校の教科担任制は一つの突破口と考えている。取り組まれているところがあれば効果や感触を教えてほしい。
本田委員	6年の体育と音楽を完全に入れ替えて実施している。子どもは好意的にとらえていて、抵抗感もなかった。それ以外の教科には広がっていない。
古賀委員長	今一步広がらない理由はあるか。
本田委員	時数が合わないことが多い。新教育課程ではやりやすくなると思う。
荒木委員	完全な教科担任制の入れ替えはしていない。単元での入れ替えはやっている。
中西委員	小規模校の教科担任については前回の会議でお伝えしたところ。学年を超えて取り組む教科担任制では教職員の負担が増える。
磯田委員	職員室を一緒にするだけで無駄な時間が短縮できたり、先生方の時間が生まれてきたり、今までできなかったものができるようになったりとか、先生方にとっての感想も吸い上げてほしい。

事務局	先生方の率直なご意見も参考にしながら、来年度以降も深化できるように、一緒に進めていきたい。
古賀委員長	平成 31（2019）年度が大きな鍵になると思う。また、2021 年度までには小中一貫カリキュラムのあるべき姿を作れたらと思う。 幼小連携は参考になる。幼稚園と小学校の両方で取り組むことで見えてくるように、小学校と中学校のつなぎ方が参考になる。カリキュラムをある程度検討して、モデル校で実践するという形で取り組んでほしい。 4 事務連絡 5 閉会